

参 考 手 本

荒林客の到る稀なり

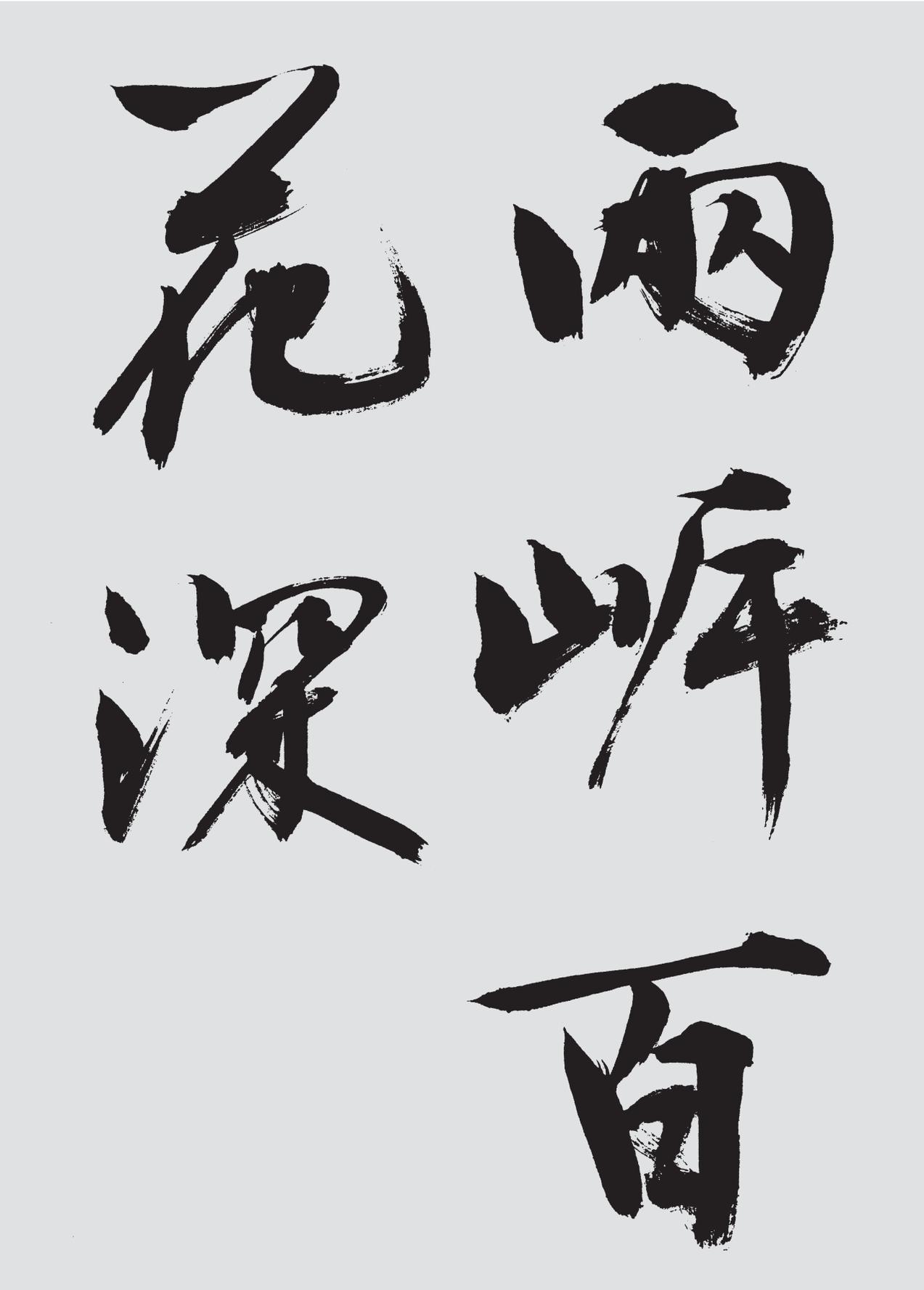
荒 林 客  
到 稀 密

成 瀬 映 山 先 生

※これは規定課題ではありません。

参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。



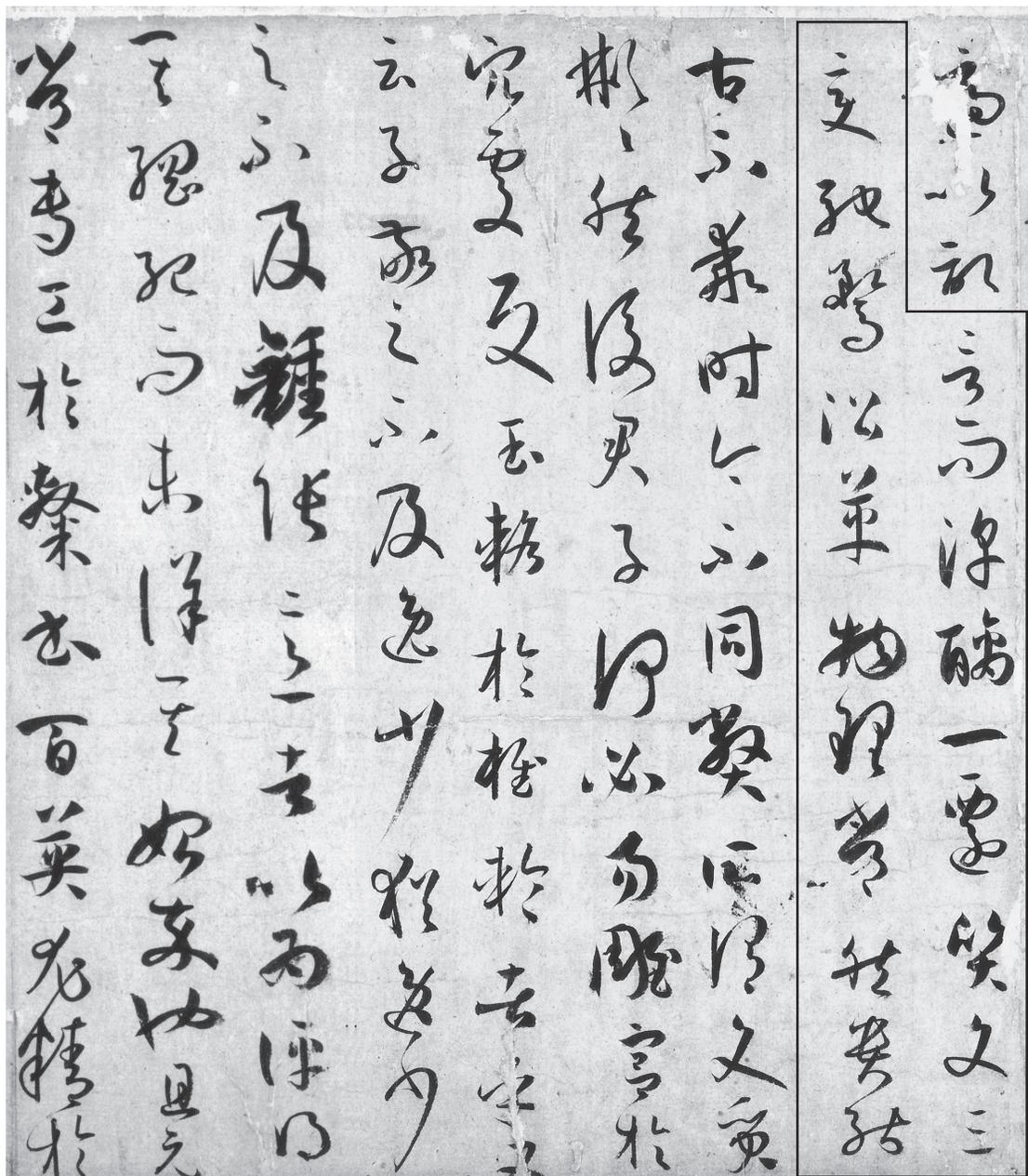
兩岸百花深し

高 木 聖 雨 先生

# 条幅規定

A部 (準五段以上)

『書譜』⑩ 孫過庭



淳醜一遷質文三變

適以記言。而淳醜一遷。質文三變。馳騫沿革。物理常然。貴能古不乖時。今不同弊。所謂文質彬彬。然後君子。何必易雕宮於穴處。反玉輅於椎輪者乎。又云。子敬之不及逸少。猶逸少之不及鍾張。意者。以爲評得其綱紀。而未詳其始卒也。且元常專工於隸書。百英尤精於

適に以て言を記すと雖も、而れども淳醜は一たび遷り、質文は三たび變ぜり。馳騫沿革は、物理常に然り。能く古にして時に乖かず、今にして弊を同じくせざるを貴ぶ。所謂文質彬彬として、然る後に君子たるなり。何ぞ必ずしも雕宮を穴處に易え、玉輅を椎輪に反す者あらんや。又云く、子敬の逸少に及ばざるは、猶逸少の鍾張に及ばざるがごとしと。意者、以て其の綱紀を評し得たりと爲すも、而れども未だ其の始卒を詳らかにせざるなり。且つ元常専ら隸書を工にし、百英は尤も草体に精なり。

## 【今月の課題】

「言而淳醜一遷質文三變  
馳騫沿革物理常然貴能」

(20字)

「この課題を同月の条幅随意には出品出来ません」

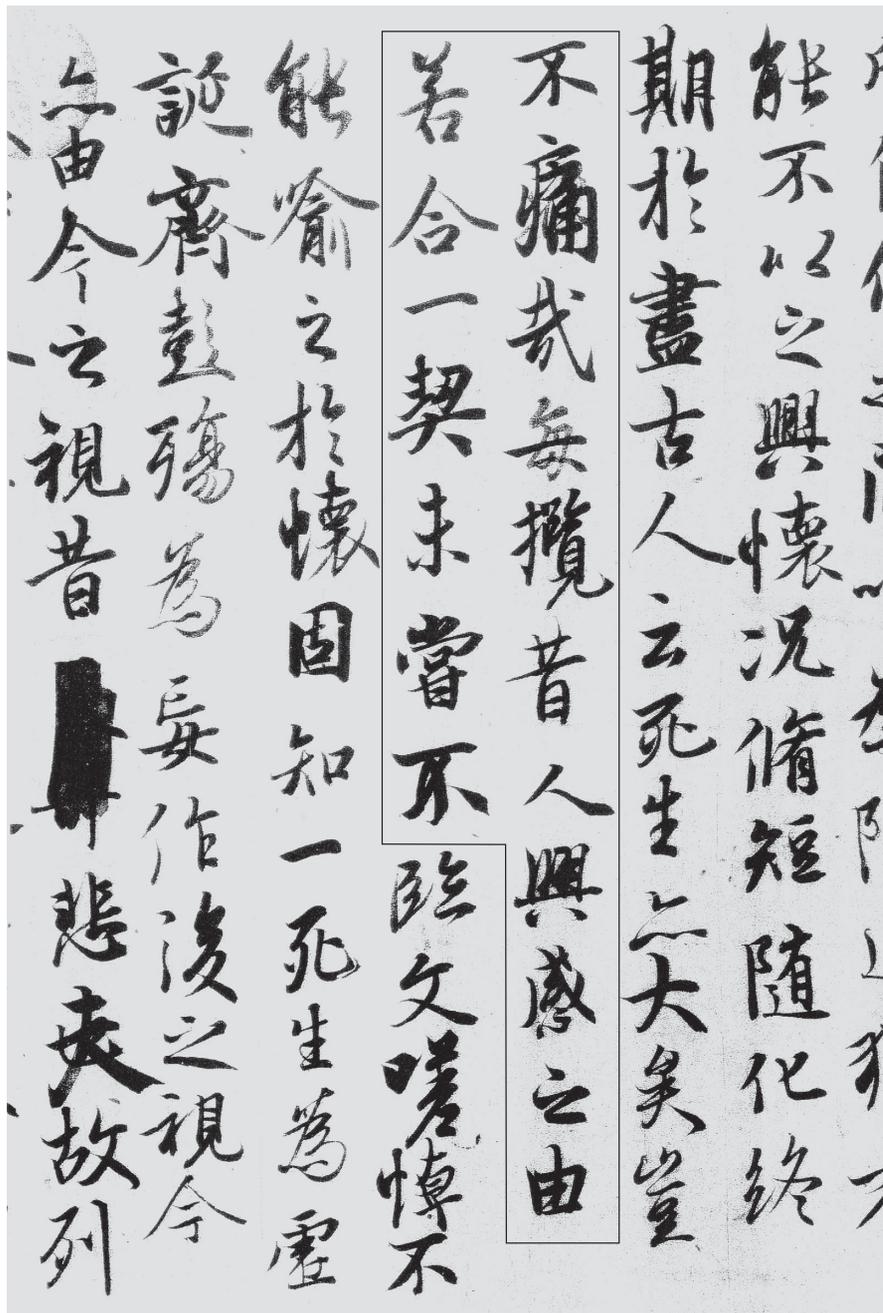
条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(3月10日締切)

条幅規定

B部（四段以下）

『蘭亭叙』 王羲之（東晋）



痛每攬興感若

能不之興懷。況脩短隨化。終期於盡。古人云。死生亦大矣。豈不痛哉。每攬昔人興感之由。不若合一契。未嘗不臨文嗟悼。不能喻之於懷。固知一死生爲虛誕。齊彭殤爲妄作。後之視今。亦由今之視昔。悲夫。故列

之を以て懷を興さざる能わず。況んや脩短は化に隨い、終に尽くるに期するをや。古人云う、死生も亦た大なりと。豈に痛ましからずや。毎に昔人興感の由を攬るに、一契を合するが若し。未だ嘗て文に臨んで嗟悼せずんばあらず。之を懷に喻すること能わず。固より死生を一にするは虚誕たり、彭殤を齊しくするは妄作たるを知る。後の今を視るも、亦た由お今の昔を視るがごとし。悲しいかな。

【今月の課題】

「不痛哉每攬昔人興感之由若合一契未嘗不」

(18字)

【この課題を同月の条幅随意には出品出来ません】

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(3月10日締切)

半紙規定 (二)

相 越 辟 卿 士

九成宮醴泉銘 (唐・欧陽詢)

辟卿士相趨

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

張掖居延都尉たり

半紙規定 (一)

延 都 張 掖 居

曹全碑 (漢・作者不詳)

張掖居延都

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書

〔二級以下〕楷書

百辟卿士 相おもむい趨むきて

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕  
(3月10日締切)

条幅参考手本

身退卑周室 經傳拱漢皇 谷  
神如不死 養拙更何鄉

長澤豊雲先生

身退卑周室 經傳拱漢皇 谷神如不死 養拙更何鄉

身は退いて周室に卑く 經は伝わりて漢皇を拱せしむ 谷神如し死せずんば 拙を養う更に何れの郷ぞ

鈴木 翡翠 先生

我似鷓鴣鳥 南遷懶北飛 時  
尋漢陽令 取醉月中歸

我似鷓鴣鳥 南遷懶北飛 時尋漢陽令 取醉月中歸

我は似たり鷓鴣鳥 南遷して北飛するに懶し 時に漢陽の令を尋ねて 酔を取って月中に帰る

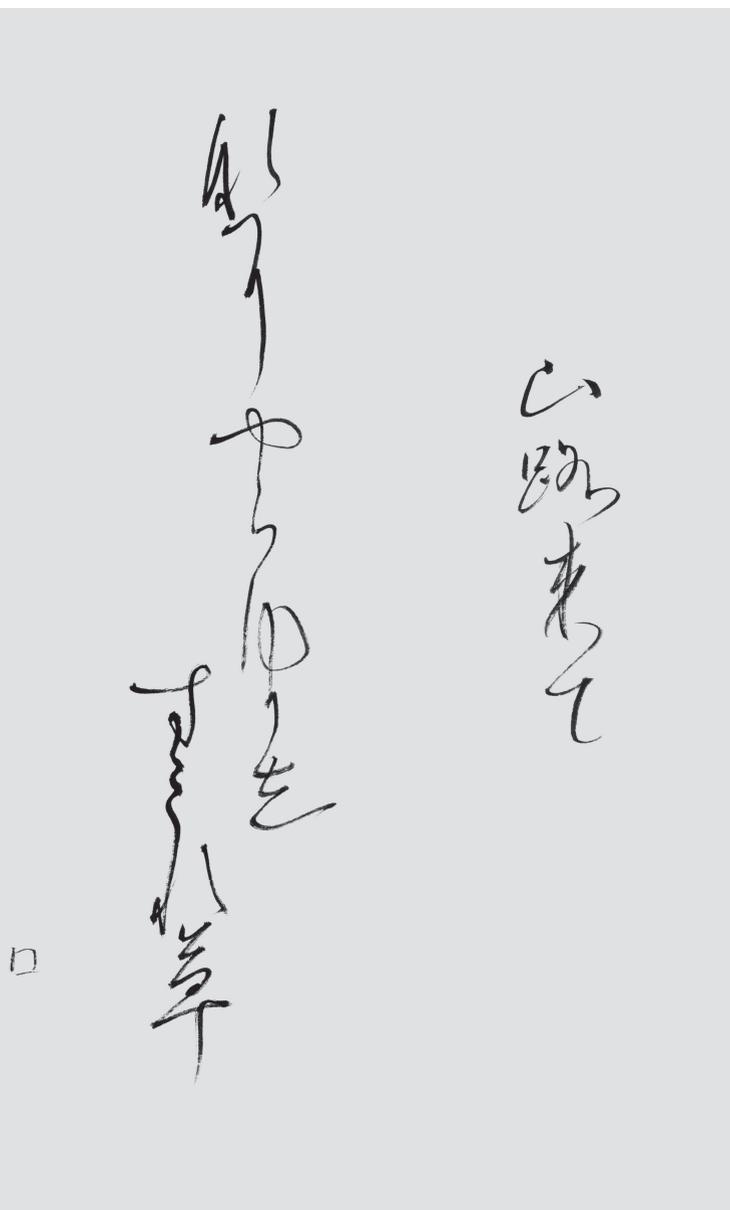


半紙かな（1級以下）

山路来て何やらゆかしすみれ草（松尾芭蕉）

支部名 級 姓 号（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由



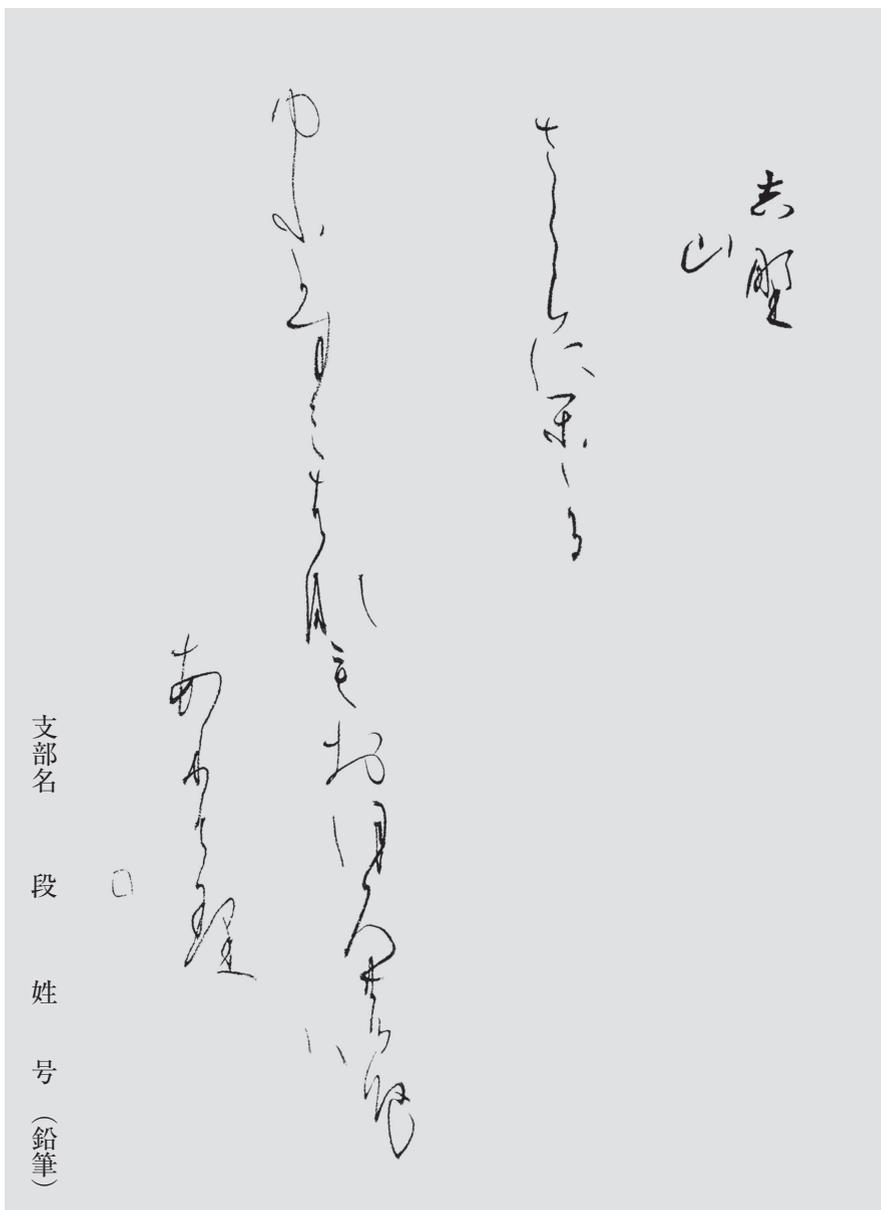
山路来て

若 月 久美子 先生

吉野山さくらにかかる夕霞花も朧の色はありけり（後鳥羽院）

支部名 段 姓 号（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由



吉野山

浮 乘 清 郷 先生

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（3月10日締切）

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

春風に独りて酒を酌み、江楼に  
 登ると半ば酔いを覚えてきた。  
 誰か一行の帰雁が雲を衝いて過  
 ぎて行くのを見て驚馬くだらう。

支 部   段 級   姓   号

主 幹 菅 野 翠 濤

韋承慶「江楼」より

(3月10日締切)

細 字

凍菓汗巾拭面仰飲  
 凍菓汗巾拭面仰飲  
 凍菓汗巾拭面仰飲  
 凍菓汗巾拭面仰飲

支 部

段 級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。 初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

凍<sup>とう</sup> 汗<sup>かん</sup>

菓<sup>か</sup> 巾<sup>きん</sup>

アイスクリーム、アイスクャンディ。  
 ハンカチーフ、手拭い。

仰<sup>げい</sup>

飲<sup>いん</sup>

上向して飲む。

硬筆（1級以下）

2行、楷書

二月は冬の終わりに向かい、春の  
 息吹を感じ始める時期です。

支部名 級 姓 号

渡邊南嶂先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

物価高が続く日々、暮らしの中の  
 志魚が試されていく。節約と豊か  
 さは必ずしも対立しない。

支部名 級 姓 号

青柳江雲先生

…続く…暮らし…知恵…

※本院定型用紙・たて半分を書く

（3月10日締切）

中2用

支 部 名	発	自
段 級	想	由
名		な
前		

渡邊南嶂先生

中3用

支 部 名	実	理
段 級	現	想
名		の
前		

大越三宗先生

小6用

支 部 名	残	山
段 級		
名	雪	の
前		

渡邊南嶂先生

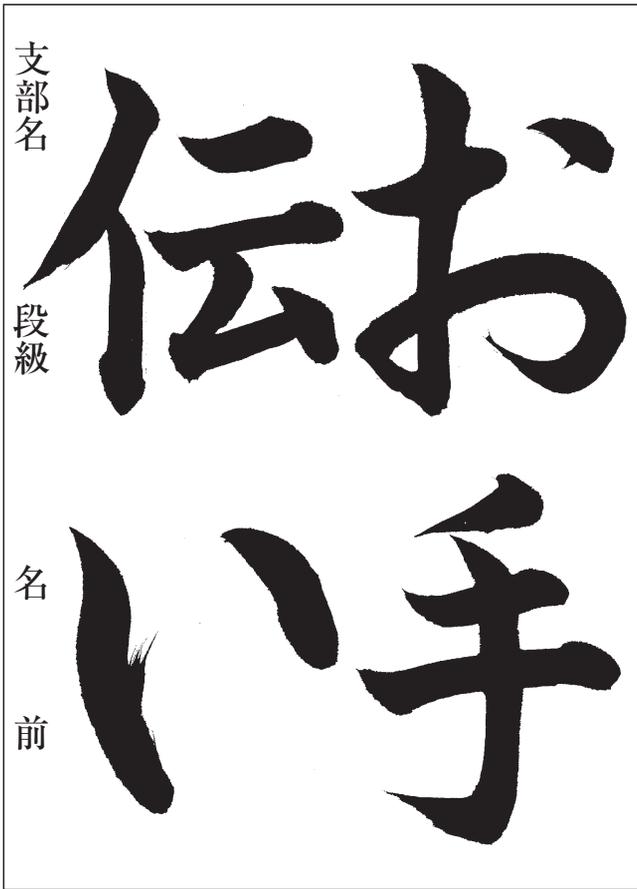
中1用

支 部 名	祝	節
段 級	う	句
名		を
前		

渡邊南嶂先生

(3月10日締切)

小4用



支部名

段級

名前

大越三宗先生

小5用



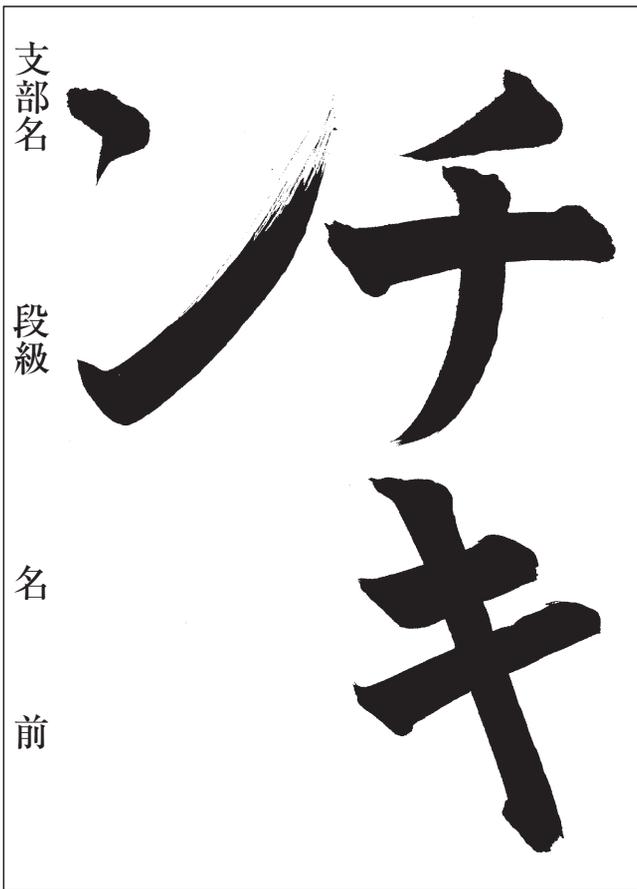
支部名

段級

名前

大越三宗先生

小2用



支部名

段級

名前

鈴木翡翠先生

小3用



支部名

段級

名前

鈴木翡翠先生

(3月10日締切)

中1

を親しい間柄でも、節度を保つことが大切。

中1~中3

中2

相手の立場を考え、痛みのわかる人になろう。

青柳江

中3

寒梅は花をつけたかな。遠い故郷が懐かしい。

雲先生

小1・幼年用

支部名

段級

んふき

名前

鈴木蕙先生

小1・幼年

つくえ、いす、えんぴつ、したじき。

小1~小3

小2

いけにこおりがはり、はるはまだ先です。

鈴木蕙

小3

まちどおしい春。山は雪がふりつづいてる。

翠先生

小4

寒い冬の日でも外に出て元気よくあそぼう。

小4~小6

小5

北国にも、もうすぐ春の足音が聞こえて来る。

田邊翠

小6

連休で、スキー場は、朝から混雑していた。

鶴先生

(3月10日締切)

小学部小筆課題

支部名 段級 名前 前

山の春に  
雪が光る

主幹 菅野翠濤

中学部かな課題

支部名 段級 名前 前

風上に  
白鳥あそび  
年たより

船久保 棠苑先生

※半紙半分に書いて下さい。(3月10日締切) ※半紙半分に書いて下さい。

4月10日締切課題予告

A部条幅規定 古不乖時今不同弊所謂文質彬彬然後君子何必

B部条幅規定 臨文嗟悼不能喻之於懷固知一死生爲虛誕

かな条幅規定 ふもとまで尾上の桜ちりこずはたなびく雲と見てやすぎまし(藤原顕輔)

半紙規定(初段以上) 尉曾祖父述 半紙規定(一級以下) 動色我后固

半紙かな(初段以上) 春暮れて人ちりぬめり吉野山花のわかれを思ふのみかは(西行)

半紙かな(一級以下) 鶯の声遠き日も暮れにけり(与謝蕪村)

実用文 京都の家を離れて三、四月経つが思い出に落涙百千行、すべて皆昔の夢であり、天を仰いで時、想い出す。(菅原道真の詩より)

一般硬筆(初段以上) 芽吹いた木、の先にまだ見ぬ景色が揺れている。新しい一歩がやがて道になり未来は開いていく。

一般硬筆(一級以下) 春の光が大地を満たし、花、が咲き誇る季節を迎えました。

4月10日締切学生課題予告

新中三毛筆 早春の青空 新中三硬筆 経験を積んだ者は、行うべき道を心得ている。

新中二毛筆 春の日差し 新中二硬筆 何事もねばり強く行動するよう心がけたい。

新中一毛筆 花見の人の出 新中一硬筆 俳句では、季語という季節の言葉を入れる。

新小六毛筆 記念の木 新小六硬筆 雪国の人は、春が特に待ち遠しいものだ。

新小五毛筆 古いお寺 新小五硬筆 早春に、山や野原を歩くのはとても楽しい。

新小四毛筆 すみの色 新小四硬筆 雪どけ水が、音をたてて流れていきます。

新小三毛筆 王さま 新小三硬筆 春になり、あたたかな風がふいている。

新小二毛筆 テニス 新小二硬筆 しなの川が大きく、しずかにながれている。

新小一毛筆 つり 新小一硬筆 もうすぐはる。ともだちふやしたいな。

新中学部かな 流れゆく椿を風の押しとどむ

新小学部小筆 清らかな 水の流れ